

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホーム レジデンスポピー		
所在地	小樽市入船4丁目2番3号 (電話) 0134-31-5373		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】 (21年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	16 人	常勤 7人、	非常勤 9人、 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造サイディング 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		光熱水費	5,000円
	その他の経費(月額)		レクリエーション費 2,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2月27日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	63 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会小樽病院、 松島医院、 西病院、 松ヶ枝歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは、食事のみ担当の職員、また夜勤のみの職員を配置し、日常業務に係わる利用者本位のケアに重点をおき、職員はゆとりをもって支援している。元女子学生寮を改築してのホームで、居室に浴室があり、一人ひとりの対応がしやすくなっている。特に介護度の重い利用者には複数の職員で対応し、事故のないケアをしている。地域の住民を取り込んだ夏祭りは、利用者や家族のみならず、近隣のグループホームとの交流の場になり、町内からも高い評価をいただいている。年間行事のみならず、外出の機会を多く実施して利用者の機能低下の防止に努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営に関して家族の意見は、運営推進会議や、面会時の話し合いなど良好な関係づくりがなされている。重度化の指針はホームとしての方針が明確化され家族の了解をいただき、信頼関係が構築されている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に職員全員で自己評価について、長期間かけての話し合いを継続し、課題解決に向けて取り組んでいる。さらに、サービスの向上を目指して工夫をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月毎に開催される運営推進会議では、参加者から意見をいただき、ホームとして取り組む課題を整理してケアサービスの質の向上に努めている。さらに、次回につなげて、良好な関係も保たれている。地域の連携に発展性が見られ、新たな取り組みも工夫されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談体制が整備され、家族などからの要望などを真摯に受け止め、職員間で検討し、改善に向けて取り組んでいる。ホームとして十分な体制がつけられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者、家族さらに職員は、地域と良好な連携が継続され、夏祭りの行事を始め、日頃から交流やボランティアの係わりなど、利用者の楽しみとなっている。玄関の表札には、利用者名が明示され、利用者一人ひとりが家族の一員となり、地域の中で家庭の役割を担っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で一般家庭のように、自然な形で理念を作成し、利用者が豊かな人間関係をホームで築けるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については職員がネームプレートに記載して、日常的に確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームと地域とは開設時から、良好な関係づくりがなされている。特に、毎年実施されているホーム主催の「夏祭り」は地域の盛大なイベントとなり、住民の楽しみとなっている。さらに、地域の介護相談にも結びついている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に、評価項目のみならず幅広く職員間で時間をかけて話し合い、日常の取り組みについて、改善点がないか検討している。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議を開催し、継続することで理解が深まり、活発に意見が飛び交い運営に活かしている。開催場所に工夫がなされ出席者の交流が良好になってきた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームとしての疑問など様々な課題に行政の指導をいただきながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者がいかに楽しく暮らしているかなど写真を多く掲載して、暮らしぶりが分かる便りを毎月発行し、家族に送っている。さらに、利用者一人ひとりに対してのコメントも記載して添付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで家族は活発に意見を出し、職員はそれを全員で話し合い、運営に活かして取り組んでいる。又、面会時には気軽に声かけなどを心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は開設時から日常の運営やケアなどを熱心に取り組み、職員の異動時には引継ぎなど、丁寧に行ない利用者には不安がないように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は課題を見つけ、定期的に時間をつくって実施している。また、外部の研修に職員が参加する機会を多く持つように心掛け、その研修内容を職員間で共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは行事への誘いや、相互訪問などの積極的な交流があり、サービスの質の向上を図っている。さらに利用者の楽しみにもなっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始以前に、利用者と家族が安心と納得がいただけるように信頼関係を深め、ホーム見学や話し合いを十分にもっている。さらに、予め職員と馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは利用者と職員が、おやつ作りや手芸などを一緒に楽しみながら教わったり、教えたり、支えあったりしながら、ともに過ごしあえる関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者と職員は利用者に寄り添う時間と姿勢を重視し、一人ひとりの個性や性格、また思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員で取り組み、日頃から利用者に寄り添う中での気づき、意見、アイデアを出し合い、利用者と家族が望むように作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に期間を決めて計画作成者のみならず職員全員で取り組み、出来ることや日々の暮らしの充実など検討した上で作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	季節の行事は利用者や家族の希望により、外出支援など対応している。日常的には、通院介助や買物支援など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況を家族と話し合い、定期的を受診をしている。医療機関と連携を密にし、往診の医師を確保して対応できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時などに重度化や終末期の対応について、家族と十分話し合い共有している。また、状況に応じて対応できるように、日頃から信頼関係が保たれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と家族のさらに職員の情報やプライバシーは取り扱いに注意はなされている。しかし、面会簿の取り扱いについてはオープンな状況である。	○	面会簿は誰でも目にする書式でなく、個人的な情報として配慮され、今後の工夫を期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活リズムを中心に、活動の広がりや個別性を活かした過ごし方を、一人ひとりに寄り添って支援している。ホーム全体が温かく、優しく仲良く暮らしている。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専属の調理員2名が配置されて、利用者の好みや希望を取り入れて献立を作成し利用者の楽しみとなっている。昼食やおやつ作りには利用者も三角巾やエプロンを身につけ、準備や盛り付けなどに参加し、片付けなどもスムーズになされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	居室にあるユニットバスで週2～3回利用者本位に配慮された入浴がなされている。浴室には段差があったり、浴槽のまたぎなどに支援の必要な利用者には、職員2名で対応することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の家事に係わる内容のことは、利用者の好みや、能力、生きがいなどを配慮して、楽しみながら役割にもつなげている。食事の準備は出来る範囲で参加していただき、利用者の楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム専用の車を所有し、近隣のスーパーに買物に出かけたり、車椅子対応の美容室に出かけたりと一人ひとりについての対応に努力している。日常的には散歩・買物など外出できる体制になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間の隣が玄関で日中玄関の開閉は、呼鈴を設置し、窓や戸の透明ガラスも把握しやすい仕組みになっている。夜間は施錠している。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力をいただいて、年2回避難訓練を実施している。又、地域の連携も良好で災害時の協力体制などの働きかけもなっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康や能力に応じた食事を担当の職員が調理し、摂取量などの確に把握して支援をしている。協力病院の栄養士の点検も年に数度実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は利用者の居場所になって、職員とともに過ごす家庭となっている。利用者の手作りの飾り付けや、装飾品など温かい雰囲気があり、居心地良く過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は元学生寮のため、浴室・トイレ・洗面台など設置された自立型であるが、部屋の特徴を活かして個別性のケアに取り組んでいる。利用者は各自、馴染みの調度品を配置して落ち着いた自分の部屋になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。